

答えが分かっているけど、言葉が出ない時「分かりません」と言うことがある

緊張するかどうかに関係なく、どもってしまおう

本当は挨拶したいのに、うまく言葉が出てこない

どもりそうな気がして他の言葉に言い換えたとき、自分の言葉で言えなくて悔しい



吃音のある高校生

吃音のことを勉強した高校生

小学生の頃から、発表のときは足が震えるほど緊張していました。

今も「予期不安」に悩まされるのは、小さいころからの不安の積み重ねが原因になっている気がします。

クラスみんなに、吃音のことを知ってもらえば、もっと気持ちが楽だったと思うのですが、あの頃の僕は、誰にも相談できませんでした。

私の友達にも吃音の子がいました。しかし、そのとき、私は吃音のことを知らなかったの、わざとしているのかと思って、その友達に「ふざけないでちゃんと話して。」と言ってしまいました。今は本当に悪いことをしてしまったと思っています。

その子は他の子からも、私が言ったようなことを言われていたし、笑われて真似されていました。本当に辛かったらと思う。いつかその子に謝りたいなと思います。

吃音の情報

● おすすめの本

- 『キラキラどもる子どものものがたり』 堅田利明著 海風社
『保護者の声に寄り添い、学ぶ吃音のある子どもと家族の支援』 堅田利明・菊池良和編著 学苑社
『特別支援教育における吃音・流暢性障害のある子どもの理解と支援』 小林宏明/川合紀宗著 学苑社
『吃音のこと、わかってください』 北川敬一著 岩崎書店

● おすすめのホームページ

- 吃音ポータルサイト 金沢大学 小林宏明先生
http://www.kitsuon-portal.jp
全国言友会連絡協議会 (吃音のある人のセルフヘルプグループ)
http://jsga.amsstudio.jp
NPO法人 どーもわーく (吃音のある人の就労支援)
http://www.domo-work.com

● その他 実用英語技能検定(英検)では、受験申込時に「特別措置申込書」を提出すれば面接で配慮が受けられます。

きつおん親子カフェ

「吃音のある子どもはひとりじゃないよ」をコンセプトに、吃音のある子どもと親を中心とした交流会や講演会の開催、吃音の啓発活動を行っています。保護者、ことばの教室教員、言語聴覚士、大学生などの有志で運営しています。

https://www.facebook.com/kitsuoncafe

監修 / 山崎 和子 (言語聴覚士)
制作 / 広島市言語・難聴児育成会
きつおん親子カフェ
イラスト / はやし みこ
発行 / 2021年6月 (第5版)



吃音の正しい理解と支援のために

吃音のある子どものまわりの方へ

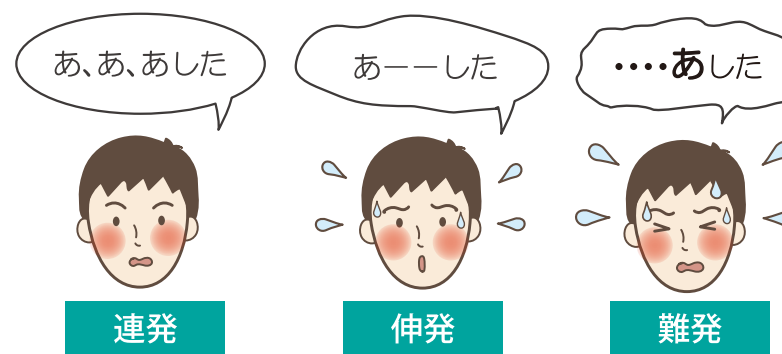
監修 言語聴覚士 山崎 和子

言いたいことが頭に浮かんでいるのに、その言葉がスムーズに出せない症状を吃音(きつおん)と言います(一般的に「どもる」とも言います)。

本リーフレットでは、吃音のある子どもたちが、ありのまま(どもりながら話すこと)を受け入れてもらえる環境の中で、自分らしさを十分に発揮しながら成長していくことを願い、吃音の理解と支援のポイントについてまとめています。

先生と保護者が、本人を中心に話し合いを重ねながら、支援に取り組んでいただくための資料としてお役立ていただければ幸いです。

吃音はこんな症状



外から見える症状

本人の心理的負担

言葉を出そうと、体を動かしてタイミングをとる、力むなど、本来発話に必要な動作を伴うことがあります。

連発は吃音が目立ちますが、心理的負担は比較的少なく、伸発、難発となるにつれ、心理的負担は増える傾向があります。

- 吃音は2~5才頃から始まることが多く、約8割の人は自然に症状がなくなるものの残り2割は吃音が続きます。
● 吃音のある人の割合は100人に1人とされています。



吃音の特徴	話し始めの言葉が出にくいことが多い	言いやすい言葉 言いにくい言葉がある	吃音が多い時期 少ない時期がある 話す場面で変わる
-------	-------------------	-----------------------	------------------------------

発表や音読は、先生や友だちと一緒にあわせて読むと読みやすいです。	言い換えができない言葉で苦労することが多いです。 あいさつ・日直の号令・健康観察九九の発表・卒業式の言葉など	自分でも吃音がいつ出てくるか予測できず、不安を募らせやすいです。
----------------------------------	---	----------------------------------

**クラスメートの理解が大切です**  
まわりの理解によって発話の不安や緊張が軽減します。

**もしも、からかわれがおこった場合すぐにやめさせてください！**

からかわれると、症状が悪化しやすいです。  
対応の例  
「からかわれると、自分の話し方をいけなれないと思い、話す前に不安になったり、力が入ったりするため、もっと話しづらくなってしまいます。どもっていても、〇〇くんの伝えたいことをじっくり聞いてください。そうすると、〇〇くんは話しやすくなります。」

- クラスメートへの説明の例**
- 「〇〇くんは小さい頃から話す時、言葉が出にくいことがあります」
  - 「つかえて話したり、話し始めるまでにすこし間があいてしまったりすることがありますが、わざとではありません」
  - 「話し終わるまで、ゆっくり聞くようにすると、〇〇くんは話しやすくなります」
  - 「話し方を真似したり、せかしたりしないで、〇〇くんを助けてあげてくださいね」

- ！クラスメートに説明する前に**
- 本人に次のことを相談してください。
- 周囲に説明した方がいいか？
  - どんなふうに説明するか？
  - 説明は本人がいない方がいいか？ いる方がいいか？

吃音の子どもだけが一緒に読むのではなく、**まわりから特別扱いに見えないさりげない配慮**をお願いします。



**子どもと直接話し合ってください**  
子どもが困っている場面、吃音に対する気持ちは、一人一人異なります。子どもにとって気持ちを聴いてもらうことが助けになります。

**子どもへの声かけの例**

- 「言葉が出にくくて困っていることない？」
- 「発表の時はどうしてほしい？」
- 「順番に指名した方がいい？急に指名した方がいい？」
- 「答えがわかっているけど、言えそうにない時は挙手の手をグーにするのはどう？」
- 「今は、指名しない方が安心かな？」

入学・進級時、長期休み明けなどに先生の方から話し合いをお願いします。



2人きりの安心できる環境で



吃音の症状が見えなくても、本人はとても悩んでいるかもしれません。どもることへの不安から消極的になり、人との関わりを避けるようになることもあります。

**子どもへの言葉かけで注意することは**

**✗ 「緊張しないで」「落ち着いて」「ゆっくり言って」**  
吃音の時は、自分の意思に反して構音器官（のどや口など）が硬直してしまいます。話し方のアドバイスをしても効果がないばかりか、逆にプレッシャーとなってしまいます。

話し方ではなく話す内容に耳を傾けてもらっていると実感できることが安心感につながります。

**はげます時に注意することは**

**✗ 「吃音は全然わからないよ」「普通に話せてるから大丈夫だよ」**  
「どもるのはいけないこと」という逆のメッセージとして伝わる場合があります。「どもってもどもらなくても君は君だよ」「どもっても大丈夫だよ」など、子どもが安心して話せる環境であることを伝えてください。